

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	レクリエーション論 [Recreation]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S2020		
この授業に関係する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、初級バラスポーツ指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
レクリエーション、レジャー、労働と遊び、遊びと人間文化、						
授業の目的と概要						
レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレーキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人間性を備えたレクリエーション支援者となることを目指す。						
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原理と意義を応用したレクリエーション支援ができる。コミュニケーションをとりながらグループワークに臨み、レクリエーションの理論を活かして、楽しさの時間を創造できる。						
回	テーマ	授業内容			AL	
1	授業概要 用語の定義	用語としての「労働 遊び 現実世界 非現実世界」				
2	労働と遊び	レジャー、レクリエーションの位置付け				
3	レクリエーション・余暇の現状と課題	余暇と自由時間、レクリエーションゲームについて			○	
4	レクリエーション運動の歴史と概念	砂場づくり運動 遊び場づくり運動 厚生				
5	レクリエーションの変遷と制度	戦後から現代				
6	楽しさを通じた心の元気づくり	アイスブレーキングについて			○	
7	地域のきずな	コミュニケーションと関係づくりについて				
8	レクリエーション支援	ホスピタリティトレーニング コミュニケーションワーク				
9	集団に対するレクリエーション支援	グループワーク 仲間づくり レクリエーション支援者の役割			○	
10	障がい者のレクリエーション	ノーマライゼーションと身体障がいの種類について				
11	みんなのスポーツ、身体障がいの理解	デフスポーツ、ユニバーサルスポーツと身体障がいの種類について				
12	福祉レクリエーション 1	身近なレクリエーションと知的障がいについて				
13	福祉レクリエーション 2	身近なレクリエーションと精神障がいについて				
14	レクリエーション活動中の事故と責任	リスクマネジメント ひやりとした体験の話し合い			○	
15	これからのレクリエーション	講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさとおした心の元気づくり （財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎 （財）日本レクリエーション協会 そ の 他 ： 必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポート（提出課題）に生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 2 時間）：毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
関連科目						
受講上の注意						